

外国人材に係る農業労災・農作業安全対策の現状と課題

株式会社農林中金総合研究所

石田一喜

石田 一喜（いしだ かずき） 株式会社 農林中金総合研究所 主事研究員・マネージャー

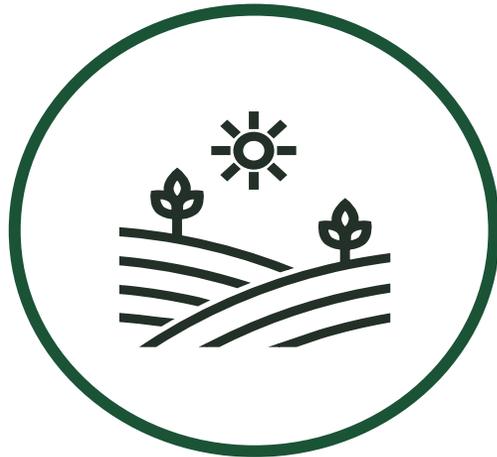
－ 1984年生まれ。福島県会津若松市出身。専門は農業経済学。

－ 東京大学農学生命科学研究科 農業・資源経済学専攻博士課程後（～13年3月）、農林中金総合研究所に入社（13年4月）。

【研究テーマ】

“持続的な農業“

地域資源の利用・管理



農地関連制度・農地利用



- ・ 農地関連制度
全中県中勉強会（22年～）
- ・ 企業の農業参入、集落営農
- ・ 農業の第三者承継・M&A
- ・ 法人価値評価（25年～）

環境と農業



- ・ “みどり戦略”の動向
- ・ 農業由来にするカーボンクレジットの創出（23年度農水省委員）
- ・ 気候変動対応

農業・地方農村部の 人手不足と“しごとづくり”



- ・ 農業労働力の状況
- ・ 農業分野の外国人動向
- ・ 地方での“しごとづくり”
特定地域づくり事業
（24年2月参議院参考人）

持続可能な研究チーム （リーダー）

石田（リーダー）
石塚、宮田、野場



- ・ 気候変動適応策（宮田）
- ・ 豪雨等災害対応・BCP（野場）
- ・ 都市農業・都市農地（石塚）

有機農業チーム （リーダー）

石田（リーダー）
河原林、山本
内田常務、小田



- ・ オーガニックビレッジ調査（石田）
- ・ 海外動向整理（山本、河原林、内田）
- ・ 環境再生型農業（25年度～）

本日本話する
内容

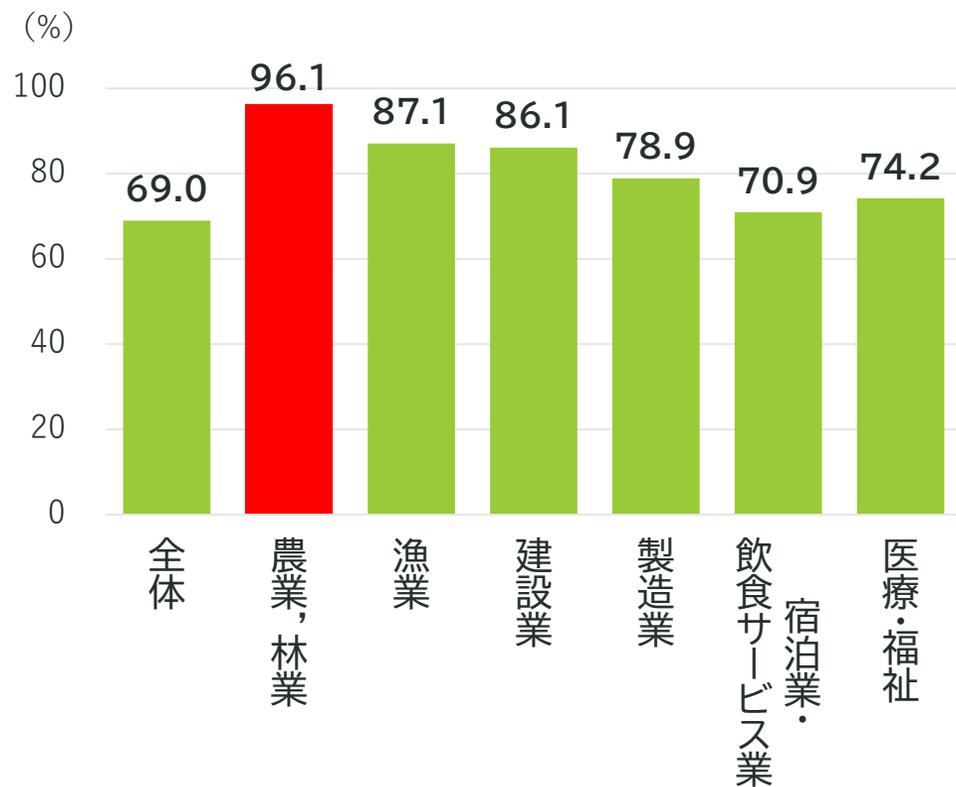
1. 外国人労働者の現状
2. 外国人労働者の労災状況
3. 外国人ならではの安全対策の現状
4. 今後の課題と展望

本
日
お
話
し
す
る
内
容

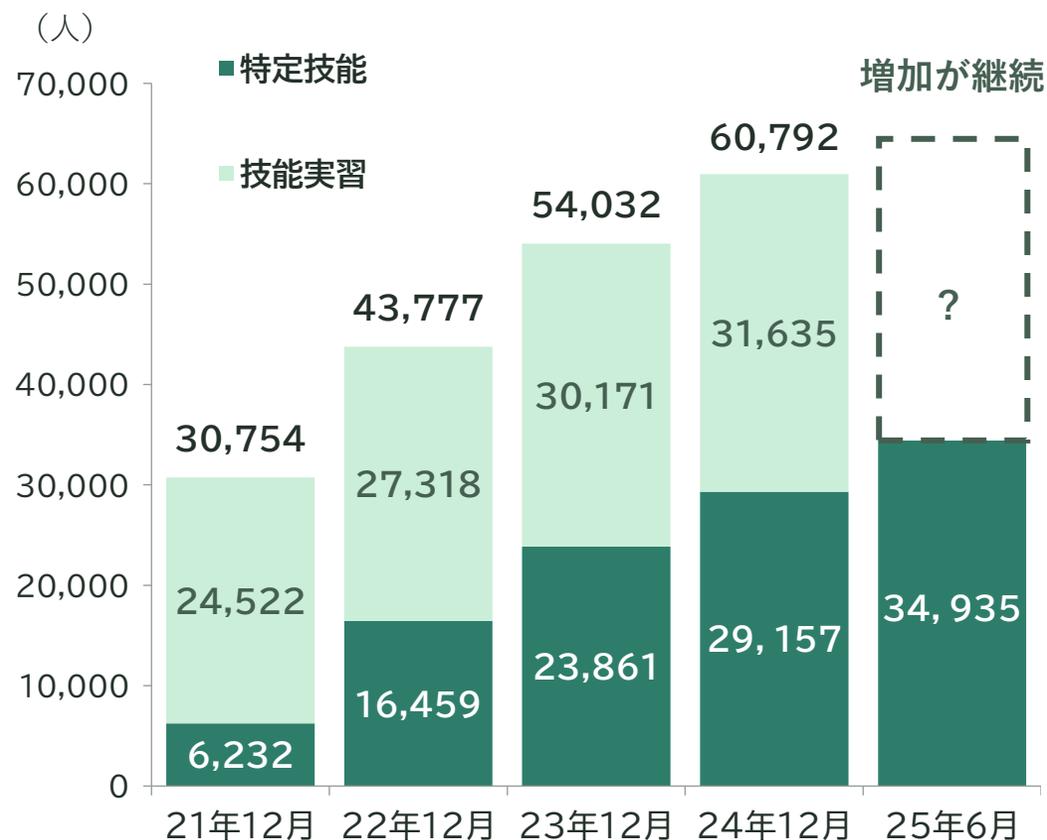
1. 外国人労働者の現状
2. 外国人労働者の労災状況
3. 外国人ならではの安全対策
4. 今後の課題と展望

農業・林業は「労働力不足の解消・緩和」を目的とする割合が高く、技能実習生数、特定技能外国人数ともに増加が続いている

外国人労働者を雇用する理由のうち「労働力不足の解消・緩和のため」の回答割合(複数回答)



技能実習生数と特定技能外国人労働者数(1号)



注 外国人雇用実態調が対象とする事業所は雇用保険被保険者5人以上の事業所に限る
 資料 左図「令和6年外国人雇用実態調査」、右図は農林水産省「農業分野における外国人材の受け入れ」(26年1月)より農中総研作成 Norinchukin Research Institute

外国人労働者 6万人の存在感は相当大きく、うち半数が「未熟練」

在留資格別 外国人労働者数(24年末)

合計:**60,966人**



技能実習生
31,635人



特定技能1号外国人
29,157人
《25年6月 34,935人》



特定技能2号外国人
174人
《25年6月 519人》

雇用者に占める外国人労働者のシェア

22年の農業での雇用者数は34.3万人(就業者の23.3%)

6.1万人 / 34.3万人 = **17.7%**



農業に主に従事している農業者数との比較

23年の50代以下の基幹的農業従事者 **23.3万人**

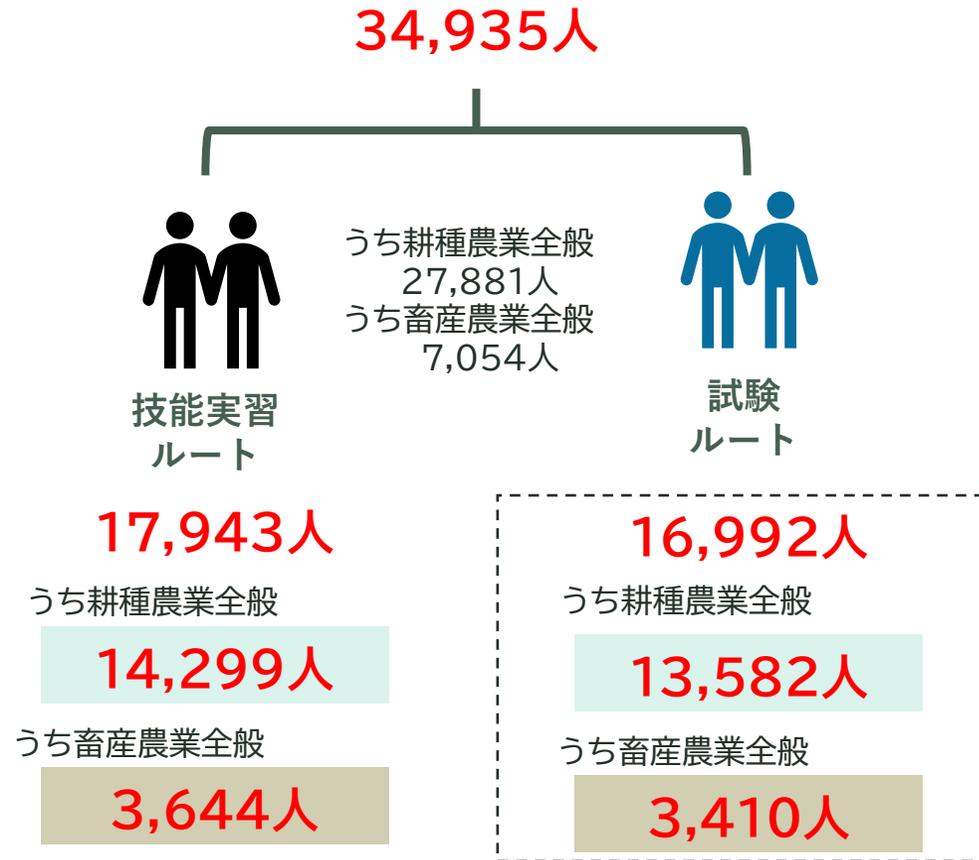
23年の30代以下の基幹的農業従事者 **5.6万人**

新規雇用就農者数との比較

23年の新規雇用就農者 **0.9万人**

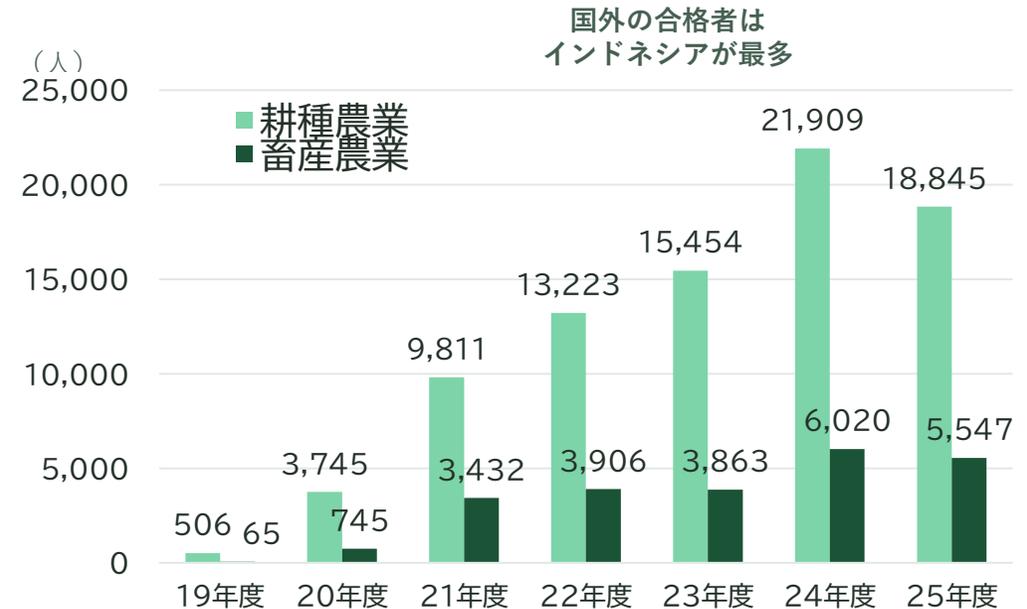
特定技能外国人のうち48.6%が「試験ルート」（農作業未経験の割合が高い傾向）

試験ルート・技能実習ルート別 特定技能1号在留外国人数



特定技能1号試験の合格者数

- 「試験ルート」の割合は、耕種農業では22年末から24年末にかけて27.3%から45.3%、畜産農業でも22年末から24年末にかけて30.5%から45.5%に上昇。
- ✓ 【参考】試験ルートのシェアは介護では86.6%、食品製造業は40.7%と低い。建設は97.7%が技能実習ルート。



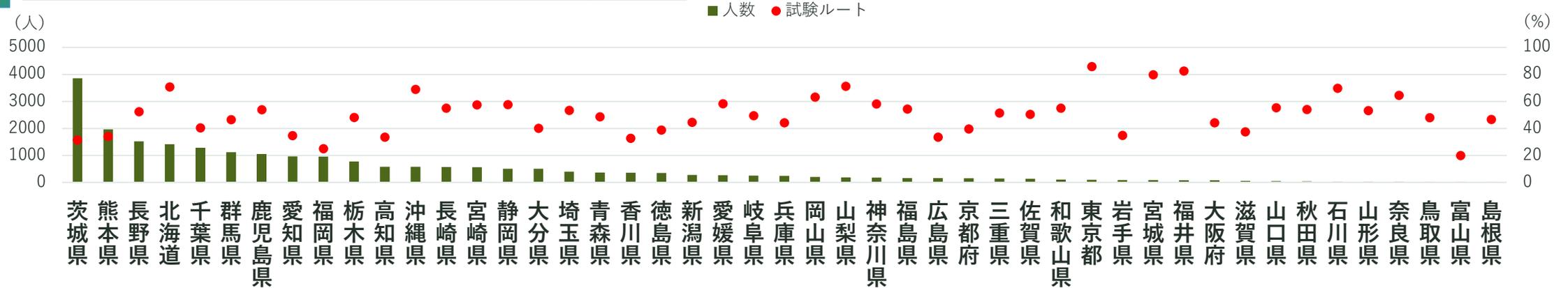
農業分野の技能実習生は施設園芸、畑作・野菜の順に多く、養豚が増加傾向

職種・作業別 在留資格「技能実習」に係る在留者数

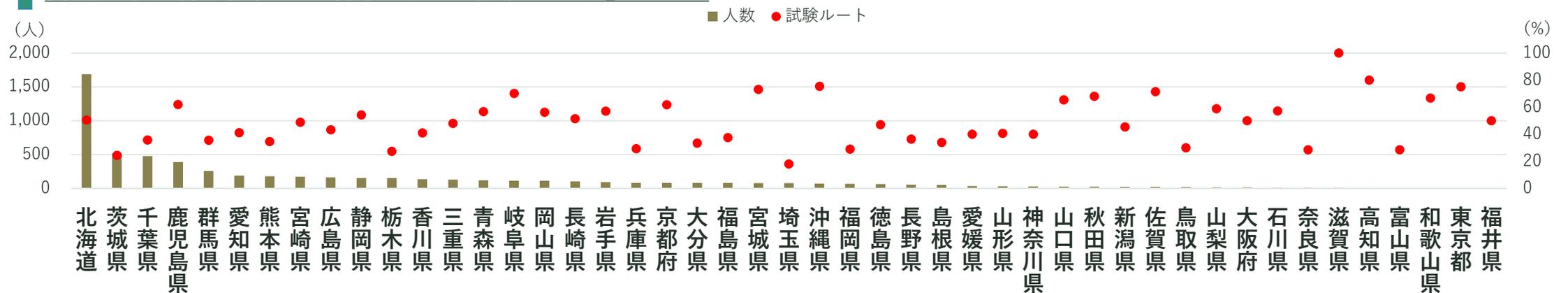
		在留者数 (22年末)	在留者数 (23年末)	在留者数 (24年末)	24年-23年 (増加率)
耕種農業 21,977人	施設園芸	12,151人	13,431人	13,950人	3.9%増
	畑作・野菜	9,410人	10,538人	11,141人	5.7%増
	果樹	416人	497人	549人	10.5%増
畜産農業 5,341人	養豚	1,023人	1,146人	1,239人	8.1%増
	養鶏	1,820人	1,999人	2,083人	4.2%増
	酪農	2,498人	2,560人	2,673人	4.4%増

【参考】 特定技能外国人数が上位の県でも「試験ルート」の割合は特徴を有する

耕種農業の特定技能1号外国人数と「試験ルート」シェア



畜産農業の特定技能1号外国人数と「試験ルート」シェア



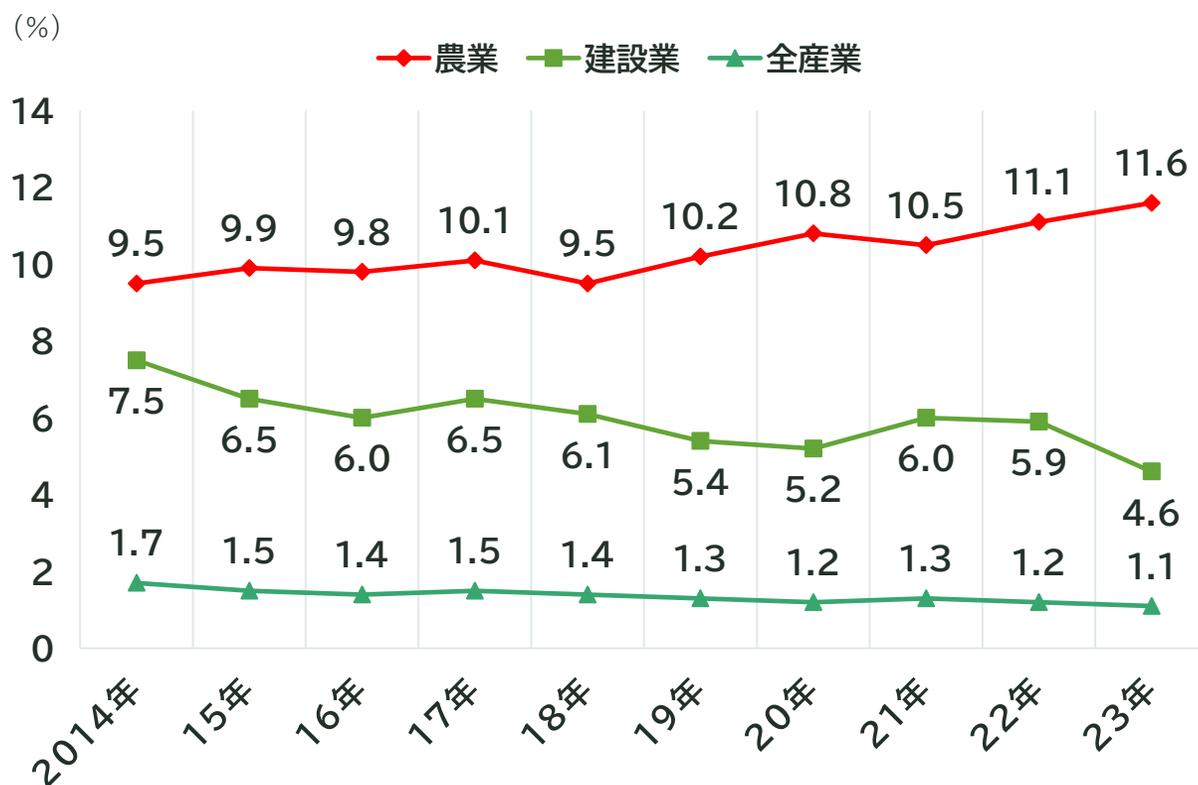
資料 出入国在留管理庁「特定技能外国人数の公表等」より農中総研作成

本日本話する
内容

1. 外国人労働者の現状
2. 外国人労働者の労災状況
3. 外国人ならではの安全対策
4. 今後の課題と展望

農業における就業者10万人当たりの死亡事故者数は11.6人と増加傾向であり、他産業に比べて高い状態が継続

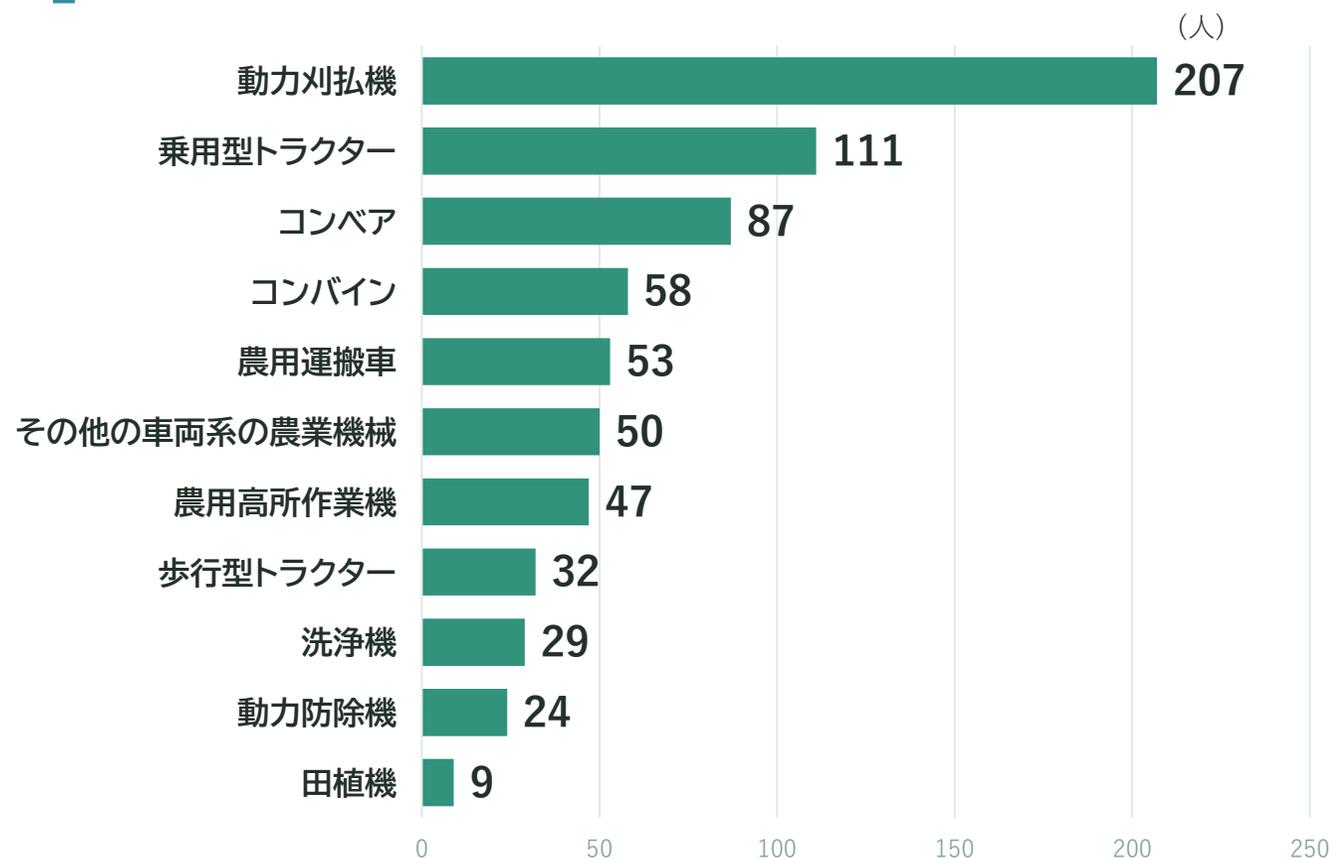
就業者10万人当たり死亡事故者数の推移



- 農業における就業者10万人当たりの死亡事故者数は11.6人と増加傾向であり、他産業に比べて高い状態が継続。
- 死亡事故の要因は、農業機械に係る事項が約6割を占めており、熱中症、ほ場や高所からの転落等。

休業4日以上の死傷災害については、機械装置に巻き込まれる災害、車両系農業機械ごと転倒する災害が多い

農業の労働災害(主な農業機械)の休業4日以上の死傷者計(2015~21)

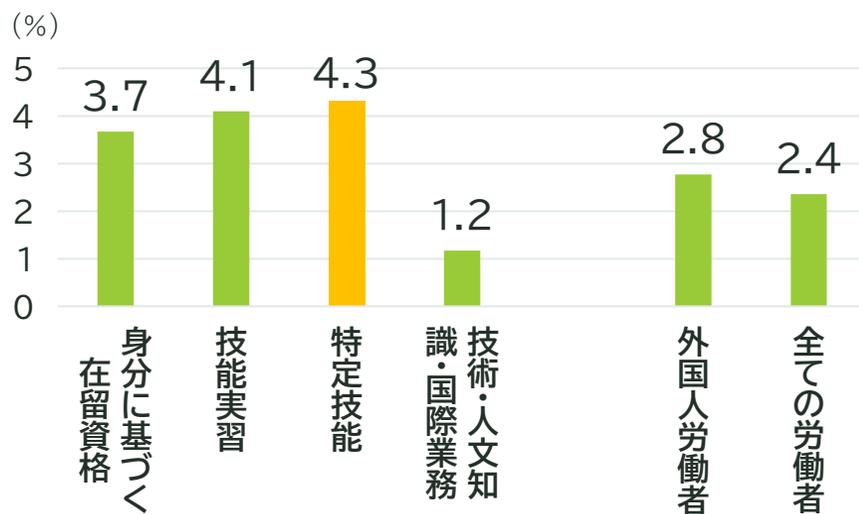


- 日本人を含めた農業の労働災害(主な農業機械別)をみると、動力仮払機が最多。
- 次いで、「乗用型トラクター」「コンベア」「コンバイン」「農用運搬車」が次いでいる。

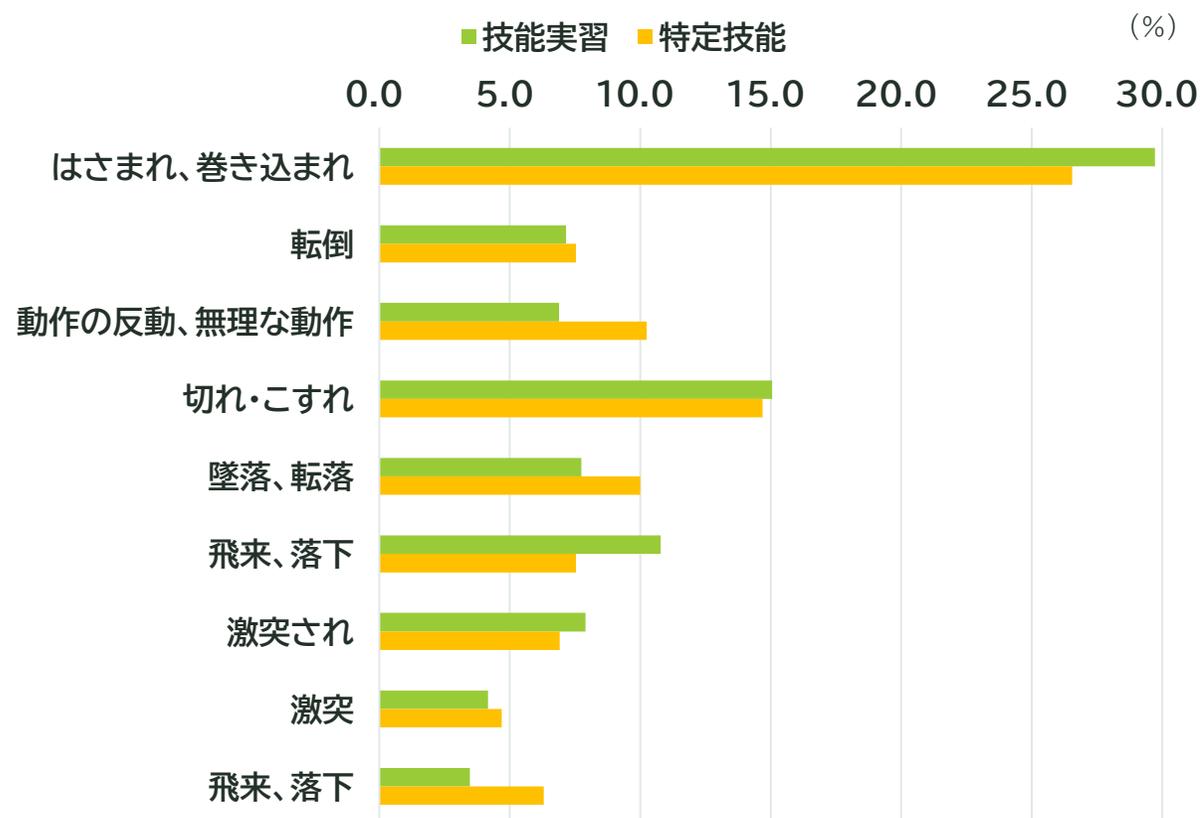
全ての労働者に対して、外国人の労働災害発生率（千人率）が高い

在留資格別の千人率

- 外国人労働者の労働災害発生率(死傷年千人率)は、技能実習生全体4.1%、特定技能外国人で4.3%となり、日本人を含む全ての労働者の千人率(2.4%)より高い。2027年までに全体平均以下とするアウトカム指標が定められている。

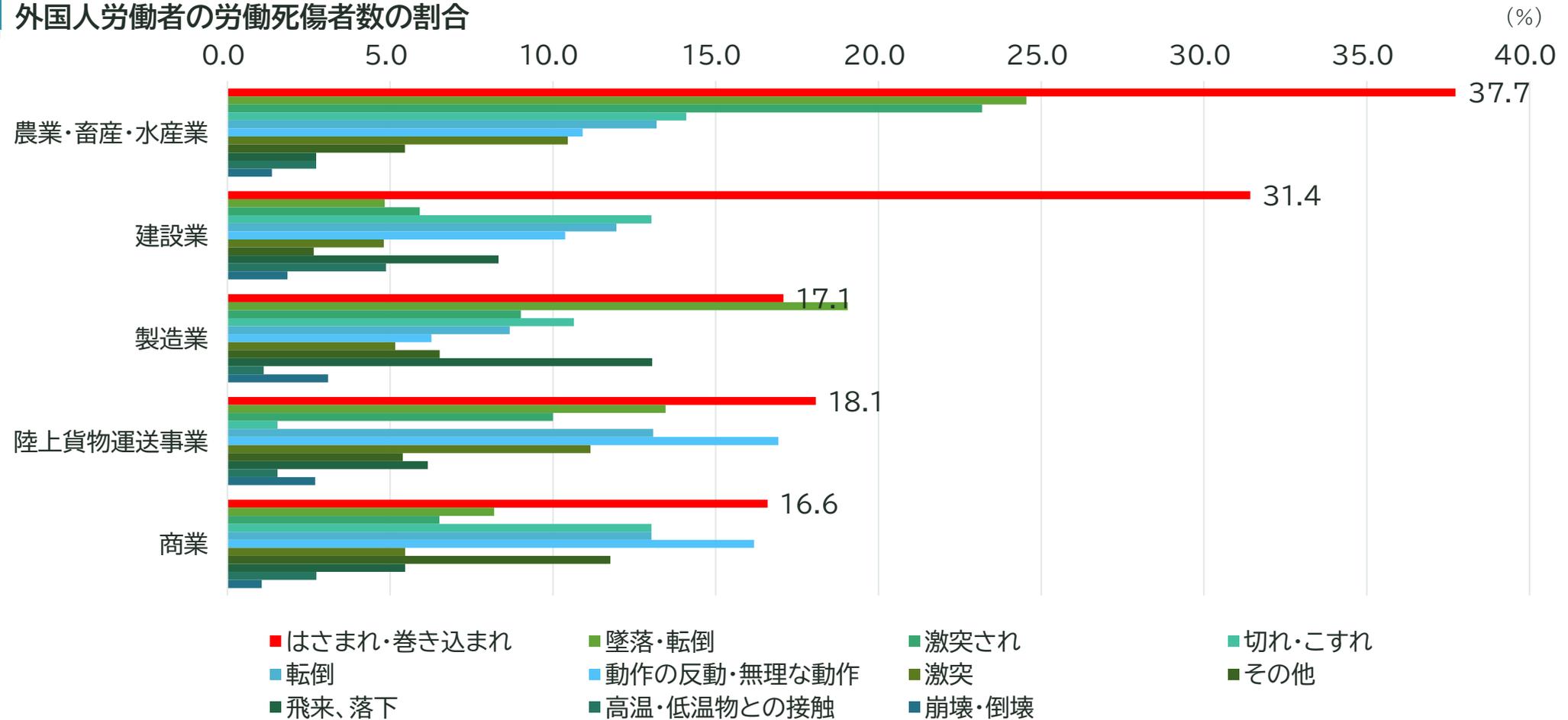


事故の型別・在留資格別の死傷者数（令和6年）



農業・畜産・水産業では「はさまれ・巻き込まれ」の割合が高い

外国人労働者の労働死傷者数の割合



資料 厚生労働省安全基準局「令和6年 外国人労働者の労働災害発生状況」より農中総研作成

本
日
お
話
し
す
る
内
容

1. 外国人労働者の現状
2. 外国人労働者の労災状況
- 3. 外国人ならではの安全対策**
4. 今後の課題と展望

外国人特有の労働災害の理由はあるか？

1. 技能実習によらず、農作業未経験者が増加傾向
2. 母国での農作業経験があるケースについて
3. 在留期間中の就労先の変更の影響も？
4. 日本語能力に由来する理解の不足の可能性

日本語能力に関する対応・対策は産業を問わず必要性が認識されている

1.「やさしい」日本語(短く・明確に・具体的に)

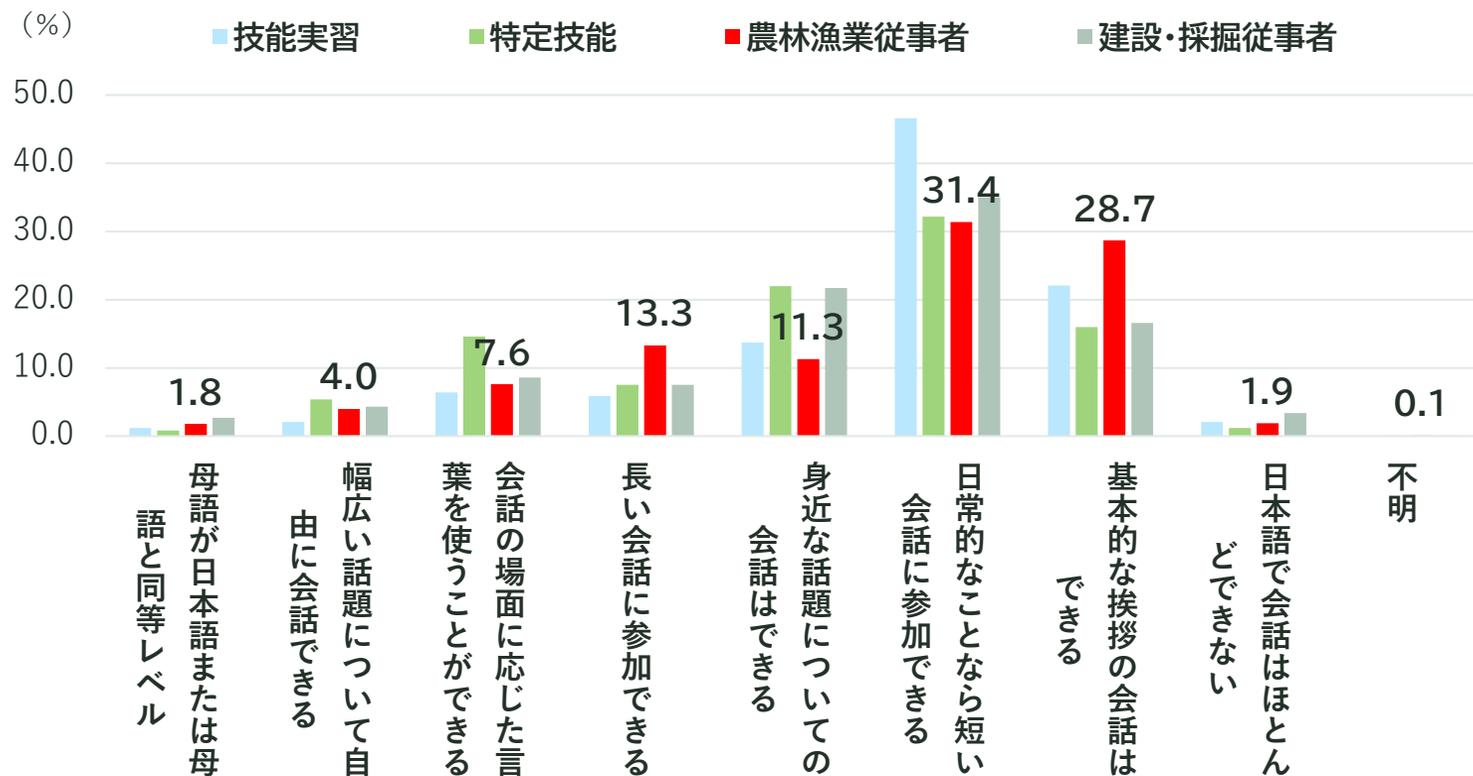
2.視覚でわかる安全表示(言語以外のコミュニケーション)

3.母国語での教材の作成

4.外国人社員が安全衛生教育を担当

農業分野の従事者の日本語レベルは平均的に低い可能性あり

外国人従事者の会話能力



農業分野の課題の特徴

- 農業で従事する外国人の会話能力は「日常的なことなら短い会話に参加できる」の割合が最多。
- それに次いで、「基本的な挨拶の会話ができる」の割合が高い。
- 全体よりも「基本的な挨拶の会話ができる」の割合が相対的に高いことは、日本語能力が低い層の存在を示唆する。
- 一方で、長い会話ができる割合も高く、二極化が進んでいる。

外国人向けの安全対策については全国農業改良普及支援協会の齊藤部長の資料が参考になる

事件事例から見た経営・生活等への影響と
外国人向け安全対策

農林水産省補助事業
令和4年度持続的生産強化対策事業
(農作業安全総合対策推進)
報告書より

事件事例・事故防止
14のキーワード

— 農作業事故原因・影響分析調査 —

あの時こうしていれば を未然に防ぐ

農作業安全総合推進協議会
(一社)全国農業改良普及支援協会
普及参事兼情報部長 齊藤 総幸

従業員の国籍を問わず、事故当事者の「もしあのとき～していたら」を紹介

キーワード

危ないと思った点をすぐに直していたら

事故当事者の多くに「もし(if)」がある



- ・ 茶の事例では、以前から袋取り式の摘採機をコンテナ式に代えなければと考えていた。
- ・ 袋取りでは、収穫した茶葉の袋をトラックの荷台に人力で積上げるために体の負担が大きい。
- ・ 事故は、梅雨の時期、普段より水分が多く含まれ、袋の重量が通常の2倍の40kgほどに重くなったが、荒茶加工の1ロット分を急いで摘採し、無理な作業で肘に負担がかかり靭帯損傷(全治3か月)。その後の収穫を断念し、対前年比1,802万円の売り上げ減。

○ リスク軽減の取組は計画的に、必要と思ったら速やかな対応が重要

○ 当然、日頃の機械の点検で異常の発見・修繕と、安全装具やアシストスーツの着用など安全や健康第一の行動で、事故を未然に防止することが最も重要

12

キーワード

早めに作業を切り上げていたら



疲れを押して作業を続けた結果、収穫期間の終盤に事故発生



- ・ 大型野菜経営(キャベツ等)で、高齢の従事者が大型機械作業
- ・ 事例では、疲れを押して長時間のトラクターによる耕起作業を終えた帰路、農道から脱輪し、転落した際に左足首を骨折(2週間の入院)
- ・ 疲れによる集中力の欠如・ハンドル操作ミス、速度超過が原因

○ 事故当事者は「時間に追われて作業をしない」、「一連の作業の終わりが要注意」と反省、作業の区切りは体調を最優先することが重要

○ 当然、早め早めの休憩をとること、作業者同士でお互いの体調の確認や声掛けにより事故を未然に防止することが最も重要

13

外国人雇用の経営についても紹介があり、熱中症、作業の伝え方の工夫を掲載

外国人雇用事例 法人経営 畜産

経営概要 法人
 経営者 九州地方 従業員7名
 経営内容:畜産

外国人雇用状況

東南アジア2~3か国から5名の特定技能

課題

インドネシア出身のムスリム女性のヒジャブ(ベール)暑さ対策をするようお願いするが拒否

対応内容

インドネシアの送り出し機関、日本の受け入れ機関、通訳を交え対策会議を実施。

農場はみな家族である(だからヒジャブを外してもよいのでは?)と伝えても「家族じゃない」と主張。

「日本は暑いでしょう」と問いかけても次に「はずしなさい」と言われることをわかって、「インドネシアも暑い」と先手を打った受け答えをする。

今後の対応

上記対策会議から、外す方向で動きつつある。

レースでできている風通しの良い生地の利用を検討中。



外国人雇用事例 法人経営 露地野菜

経営概要 法人
 経営者 関東地方 従業員100名
 経営内容:露地野菜

外国人雇用状況

東南アジア5か国から40~50名

課題

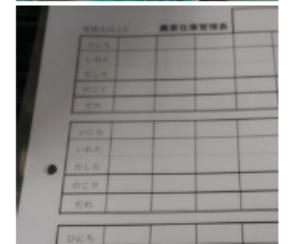
- ①多言語の従事者に対する的確な作業指示(マニュアルの多言語化)
- ②住まいの確保

対応内容

- ①これまでは、総務担当の職員(日本人)が多言語のマニュアルを作成。
 - ・カンボジア人の専属通訳を雇用。
 - ・記録用紙の項目をひらがなで作成するなど、馴染みやすい取組。
 ※当該農場はGAPの認定を受けている。
- ②できるだけ大家さんに好かれるように助言し、次の従業員(研修生)も受けれてもらえるよう努める。

最近の対応

- 動画マニュアル編集ソフト(tebiki)を使って各国語で作成。作業上の細かな注意点なども掲載。
- ※動画で見せて母国語で聞けることが理解しやすい。



本
日
お
話
し
す
る
内
容

1. 外国人労働者の現状
2. 外国人労働者の労災状況
3. 外国人ならではの安全対策
4. 今後の課題と展望

必要な認識と課題

【今後の対策のポイント】

- 1 衛生安全対策を欠いた職場での人手確保は難しい認識が必要(法令違反は外国人雇用が不可に！)
- 2 外国人従業員同士での安全意識が向上する仕組みを(職階をつくる、外国人のチームリーダーの育成)
- 3 育成就労制度を“良い機会”と捉える発想(育成就労は日本語を重視)
- 4 直接雇用以外の選択肢が増えるなかで、あらためての制度理解や「請負」を通じた実質的な確保も一案？

【今後の課題】

- 1 就労の長期化が“慣れ”につながり、事故等につながらないような配慮が必要？(役割変化も有効)
- 2 オペレーター層も人手不足となり、機械作業を外国人に依頼するケースも増加(講習・資格への配慮も必須)
- 3 職場のコミュニケーションの有無も大きなポイント(日本人従業員でも同じ)